

令和元年度  
第2回東京都防災・仮住まい検討会

令和元年12月16日（月）

## 議事要旨

### ※発言者の敬称略

#### 1 ゲスト報告・質疑

##### (1) 原 朋久 (内閣府)

「大規模災害時における被災者の住まいの確保について」の報告及び質疑

##### (2) 稲本 昭二 (公益社団法人全国賃貸住宅経営者協会連合会理事)

「賃貸型応急住宅による被災者支援活動について」の報告及び質疑

#### 2 世田谷区のワークショップについて

##### (1) ワークショップの方法等

(石井) 参加者の年齢構成はどうだったか。

(佐藤 (慶)) 年齢は、30代から70代だ。

(石井) 世田谷区は、特異的なエリアだと思う。

(大月) 烏山で行われたとのことだが、世田谷内での地域性を感じられるところはあったか。

(佐藤 (慶)) 今回は区役所に相談して、会場が空いていたという理由から烏山で開催した。

今後は、場所を変えて多摩と墨田区で行う予定だ。

##### (2) ワークショップの知見

(佐藤 (慶)) Findingsは、ワークショップの一連の分析結果から見出した政策提言の素材だ。

(岡本) 「持ち家の自力復興シナリオの浸透」について、住まいを色々な制度を活用して復興していくということに対して弁護士会等で作った冊子をご提供できればと思う。

マンションについては、バラバラの区分所有者が一番問題だと認識している。最新のマンションになると、公的支援がほぼゼロの場合にどうするかという課題がある。「被災マンション生活再建リーダーの育成」の視点というのはその意味でも大変重要な視点ではないか。

(佐藤 (隆)) Findingsの5点は非常に重要だと思っている。「持ち家の自力復興シナリオの浸透」だが、これはどちらかというと生活再建支援金を使って自力再建、住宅の建設みたいなイメージが強いのか。

(佐藤 (慶)) そうだ。世田谷区では、仮設住宅の話ばかり載せているのではなくて、自分で再建していくイメージが語られていた。

(佐藤 (隆)) 「広域避難先・疎開先のニーズの把握」と「防災姉妹都市との事前交流」は、我々もずっと展開しているもので、これも非常に重要だという気がしている。

「被災マンション生活再建リーダー」は非常に重要だが、実際、仙台や福岡の被害実態を調べると再建というよりほとんど手放した後に、ディベロッパーに買われているという事例が圧倒的に多い。その辺を、リーダーを育成しながら、どうやって補修にもっていくのか、再建にもっていくのかを含めてきちんとした議論をする必要がある。

また、地震でなくてもマンションの再建で多くみられるのは、権利者負担を増床分の一部まかなう方法だ。これは行政を含めて検討していく必要がある。

プレハブ仮設住宅については質の高いものも多くあるということを大いにアピールしても良かったのではないか。

### 3 リーフレットの構成や内容について

(佐藤(慶)) 東京都が出している「東京防災」はイラストなど工夫されていて、手に取りやすく分かりやすい。リーフレットは、「東京防災」の雰囲気を取り入れて、作成していくことを考えている。

(佐藤(隆)) 1頁目の「住宅再建スゴロク」について、被災後の流れは単調に描かれている。多様な流れを描いてほしい。

(事務局) 我々の方でもいろんな矢印が出るという話をしている。その辺は複雑になりすぎないように検討する。

(佐藤(隆)) 3次元のイメージ。

(稲本) スゴロクの中で国の補助金を受けるものか、受けないものかを区別する。

(事務局) 応急仮設住宅は運用が弾力的になっており、現場の実務ではそこをチェックすることが困難だ。

自力で選ぶということと、制度上の応急仮設に入ることとの境目が曖昧になってきているのでどういう情報を示すのが一番よいかを検討している。

(大月) 「リーフレット」という呼び名で良いのか。スゴロクというのは非常に大事だ。被災ツリーの場合は、どの情報をどう出すと合理的判断になりうるかを考えなければいけない。

住宅種別では、「戸建て持ち家」、「マンション持ち家」、「借家」の大まかに3つに分けられる。避難の時の逃げ方も住宅種別3種類によってシナリオが分かれるのではないか。また、ケアすべき家族の種類やその人と同居、近居の種類もある。これらを住宅種別で色分け、ケアする人で形分けしたマトリックスをつくるべきだと思う。矢印の太さや色分けしたスゴロクにして、都民が私はこれだと、たどれるようなものにする。

自宅避難というシナリオや建てないというシナリオ、復興のシナリオ等を事前に知らせることが非常に重要だ。たぶんものすごく多様になるのは間違いない。

被災ツリーは多様になってよいが、仮設スゴロクは、自分の場合はこれだとわかるように、最終版にはデザイナーを入れた方がよい。

(岡本) 生活再建のチャートが非常に複雑なので、次回までに弁護士会がつくった資料を提供する。それを参考にしながらつくることで、法律との整合性をとっていただければと思う。次回検討会時にその資料を机上配布いただきたい。

(佐藤(隆)) 住宅再建はグループ補助金が出る。補助や免税のあるもの等いろんなものが

ある。

(佐藤(慶)) 先ほどのお話にあった被災者のとりうる行動を網羅的に示すのか。それとも公的支援が及ぶ行動に絞って示すのか。これを明確に設定する必要がある。

私は、自助、共助を含めて、網羅的に示す方向が良いと考えている。

リーフレットをきっかけに、それぞれの今後の取り組みにつながればよいと思っているので、あまり限定する必要はないと思う。

(岡本) リーフレットは、多様な選択肢を考える素材になればよいと思う。

(浅野) 小さなお子さんのいるママ向けというのがあるが、ママに限定せずに示す。

大規模災害時にいかに在宅避難ができるかが重要。チャートの一番上に在宅避難を入れて作った方がよい。事前の備えとして、持ち家の方がしっかりと建物の保全をやっておく重要性も示すと良い。

東京の場合は公費解体の問題も出てくると思うので、そこをしっかりと広報しておくべきだと思う。

(石井) リーフレットは、日本語だけという構想か。マンションは情報を得にくいし、難しい言葉が出てくるので読めないかもしれない。

(岡本) 居住資格のある外国人向けということか。制度支援の対象になる方か。

(石井) そうだ。会話はできるけれども読み書きは難しい人向けだ。

(浅野) 徐々に建物所有している外国人が増えてきている。

(佐藤(慶)) 多言語化の検討は課題として予算の制約もあるので検討課題としたい。

以上